

報道関係者各位

2026 年 10 月 20 日

ROBO-HI 株式会社

新製品リリース

ロボットの「群制御」を、人の現場へ

GPS が届かないビル・工場でも、作業員の「居場所・指示・完了報告・安否」をスマホ 1 台でつなぐ『ROBO-HI スタッフサービス』受注開始

ROBO-HI 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：谷口 恒）は、自律運用 OS『ROBO-HI® OS（ロボハイ® オーエス）』で培ったロボットの群制御技術を、あえてロボットではなく「人」の現場に応用した新サービス『ROBO-HI® スタッフサービス』の受注を、本日より開始します。

ビルメン、造船・プラント・土木建築業界、大型物流倉庫など、GPS の届かない屋内でも、作業員の現在地を「何階のどこ」まで把握。空いている最適な人への作業指示、写真を撮るだけの AI 完了報告、転倒や熱中症リスクの早期検知までを、スマートフォン 1 台でワンストップに提供します。



■ ROBO-HI スタッフサービス Web ページ：<https://www.robo-hi.jp/robo-hi/robo-hi-staff>

■『ROBO-HI スタッフサービス』の仕組み

スマホ1台で「居場所→指示→報告」が回り続ける



サービス全体像：5 ステップのサイクルと常時の見守り

「どこにいるか」を起点に、指示・作業・報告・次の指示までが途切れなく回ります。その間ずっと、スタッフの安全も見守り続けます。

■ 開発の背景：「人」の管理だけが、まだアナログだった

人手不足が深刻なビル・工場では、設備やロボットのデジタル化が進む一方、「人」の管理は無線・電話・手書き日報といったアナログな方法にとどまっています。誰がどこにいて、どの作業が終わったのかが見えないことこそが、現場の生産性を縛る最大のボトルネックです。

当社は、多数のロボットを1つのOSで協調させる「群制御」の仕組みを人の作業に応用することが、最も現実的で即効性のある解決策だと考え、本サービスを開発しました。スタッフのスキルと作業進捗を可視化することで、成果を出す人が正しく評価され、職場全体のモチベーション向上と省人化を両立します。

■ 外国人材の受け入れが本格化：「育成就労制度」2027年4月1日施行

技能実習制度に代わる「育成就労制度」が2027年4月1日に施行されます。原則3年で特定技能1号水準まで育成し、特定技能1号・2号へと続く長期就労の道が開かれます。言葉の壁を越えて早く一人前に育て、定着してもらう仕組みづくりが、受け入れ企業の競争力を左右します。

人とROBO-HI OSをつなぐインターフェイス『EYECAN® Staff』は、各段階で外国人スタッフの成長と定着を支えます。ゲーミフィケーションによるモチベーション向上も組み込んでいます。

■ 『ROBO-HI スタッフサービス』が実現する3つの価値

① 最適配置で省人化：ロボットの「群制御」を人に

独自のスタッフマッチングエンジン『ROBO-HI® DANCE』が、スタッフ一人ひとりのスキル・所在地・作業進捗をリアルタイムに把握し、手の空いた最適な人に次の作業を割り当てます。現場全体のボトルネックが見え、成果を出すスタッフを正しく評価できます。最少人数で最大の成果を出す「省人化オペレーション」を実現します。

② 移動のムダをゼロに：GPSが届かない屋内でも約3mで位置を特定

スマートフォンのIMU（慣性計測装置）による歩行者デッドレコニングと、施設内の電波強度をAIで統合処理し、「何階のどこにいるか」を約3m以内の精度でリアルタイムに特定・記録。大規模施設、建設中のビル、地下やトンネルでも、指示の重複や人員配置のロスをなくし、移動時間を大幅に短縮します。

GPSが届かない屋内でも「何階のどこ」がわかる



屋内測位の仕組み：IMU と電波強度を AI で統合

③外国人スタッフも即戦力に：多言語チュートリアルと AI 完了レポート

多言語チュートリアルで、外国人スタッフの教育期間と費用を大幅に削減します。作業の前後に写真を撮るだけで、AI が完了レポートを生成（EYE-Scan）し、次の作業場所を自動で指示（EYE-Action）します。手書き中心だった日報・報告は「撮るだけ」に。管理者の確認作業も大幅に効率化します。

■ 過酷な現場を支える「安否確認・熱中症対策機能」

造船などの重工業や土木・建設の現場では「1 人作業」が多く、万一の際の発見の遅れが課題です。本サービスは、スタッフの命を守る機能を標準で備えています。

①**転倒・不動の自動検知**：スマートフォンが転倒や長時間の不動を検知すると、本人へ自動で確認連絡を送ります。応答がなければ監視センターや近くのスタッフへ通知し、正確な位置情報をもとに駆けつけて安否を確認します。

②**スマートウォッチによるバイタル監視**：心拍数や体表面温度を常時モニタリングし、熱中症のおそれがある変化を検知した段階でアラートを発します。「倒れる前を見つける」ことで、改正労働安全衛生規則が求める報告体制・対応手順の整備を支援します。パディ制や定期連絡と組み合わせた安全管理体制も構築できます。

ご相談はこちらから

下記お問い合わせフォームより、お気軽にご相談ください。

ROBO-HI 株式会社 営業部

お問い合わせフォーム：<https://www.robo-hi.jp/contact/inquiry>

【ROBO-HI 株式会社について】

「ロボを社会インフラにする」というビジョンのもと、創業以来培ってきた幅広いロボット技術・遠隔監視/制御技術をもとに、世界中のロボットが最大限の性能を発揮できる自律運用 OS「ROBO-HI® AOS（ロボハイ® エーオーエス）」をスマートシティ・スマートエアポート・スマートホスピタルへと展開しています。生活を豊かにするライフモビリティ「RakuRo®（ラクロ®）」「DeliRo®（デリロ®）」「PATORO®（パトロ®）」、空港や広い施設で活躍するインダストリアルモビリティ「RoboCar®（ロボカー®）」と、「ROBO-HI® AOS」の連携により、あらゆる現場の省力化・省人化に貢献してまいります。

所在地：東京都中央区晴海 1-8-8 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーW 棟 14F

代表者：代表取締役社長 谷口 恒

HP：<https://www.robo-hi.jp/>